リアルタイム現地情報

アザミウマ類のまん延防止を目的にしたピーマンの古株枯死技術の実演会を開催

ピーマン栽培終了後に、生木を枯らさずハウス外に持ち出すとウイルスを保毒したアザミウマがハウス外に飛びだすことになり、地域全体へウイルス病が拡大する危険性が高まります。

そこで、令和5年11月8日（水)、農業総合センター鹿島地帯特産指導所（神栖市息栖）において、アザミウマ類のまん延防止を目的にしたキルパー液剤による古株枯死技術の実演会を開催しました。当日は、鹿嶋市・神栖市のピーマン生産者、資材店、関係機関を合わせ81名が参加しました。

今回は、アザミウマ類が媒介するウイルス病の基本的な防除対策として、栽培終了後にハウス内で古株を枯死させる重要性について説明した後、キルパー液剤を利用した古株枯死技術の実演を行いました。普及センターや農薬メーカーから、処理方法（潅水チューブ、点滴チューブ）と処理時期による注意点について説明しました。

また、近年、県内で導入が進みつつあるアザミウマ類を捕食する天敵昆虫「タバコカスミカメ」の活用事例と試験研究の進捗状況について、鹿島地帯特産指導所から報告しました。

参加者からは、「今作から、キルパー液剤での古株枯死を行い、アザミウマを防除したい」、「タバコカスミカメを導入したい」との声があり、関心の高さを伺うことができました。

普及センターでは引き続き、ピーマン産地のアザミウマ類のまん延防止に向けた取組を支援していきます。

点滴チューブを利用した実演（当日は水を使用）

アザミウマを捕食する「タバコカスミカメ」